

「わたくしたちの教育史～耕餘塾を中心に～」

* 展示期間 2025年1月15日～3月29日

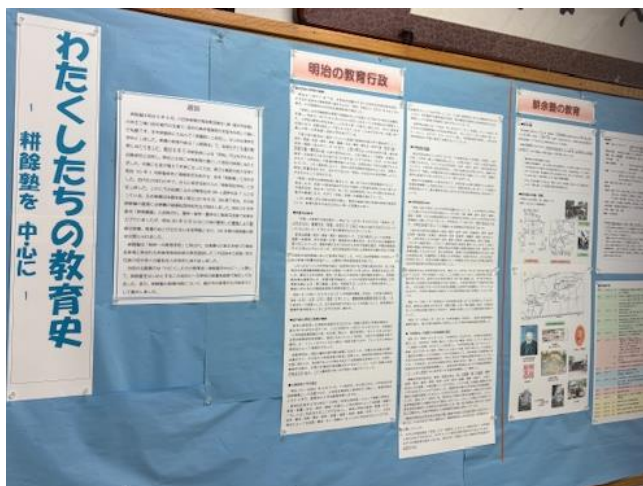
今回の展示の趣旨

耕餘塾は明治5年3月、小笠原東陽が高座郡羽鳥村（現・藤沢市羽鳥）の名主三觜八郎右衛門の支援で、同村の廃寺徳昌院の本堂を利用して開いた私塾です。まず徳昌院にちなんで「読書院」と命名し、はじめは漢学を学科としました。東陽の教育方針は「人間育成」で、地域の子どもの教育に当たりました。明治6年5月新政府による「学制」が公布されると羽鳥学校と改称し、学校とは別に中等教育の場として指定の教育に当たりました。次第に生徒が増えて手狭になったため、再び三觜家の助力を得て明治10年1月新塾舎をと寄宿舍を完成させ、名を「耕餘塾」と改めました。

近代化の流れの中で、さらに英学を取り入れ「耕餘英和学校」と改名しました。このころの記録によれば寄宿生徒96人通学生徒7人となっている。なお東陽は体調を崩し明治20年8月、58歳で逝去、その後耕餘塾の塾長には東陽の娘婿松岡利紀先生が就任しました。明治23年学舎は「耕餘義塾」と改称され、漢学・英学・農学など高度な授業で成果を上げていましたが、明治30年9月9日この地の襲来した暴風により塾舎は倒壊、再建のめどが立たないまま閉塾となり、25年間の耕餘塾の歴史は閉じられました。

耕餘塾は「相州一の高等学府」と称され、は東陽らの教えを受けた戦後名宰相と称された吉田茂を始め味の素を創設した二代目鈴木三郎助・忠治兄弟のほか多くの著名な人材を世に送り出しました。

今回の企画展示は「わたくしたちの教育史～耕餘塾を中心に～」と題して、耕餘塾をはじめとするこの地の小・中学校の変遷を図表で表記してみました。また、耕餘塾の教育内容について、藤沢市の教育文化の始まりとして展示しました。



展示風景



ご来館をお待ちしています！



明治郷土史料室とは…

私たちが住むこの明治地区には、古くからの有形無形の文化が育まれてきました。特に明治期に羽鳥の地にあった耕餘塾は、名宰相と言われた吉田茂をはじめとする多くの政治家・実業家・教育者・社会活動家などを輩出し、日本の近代的発展のために多大なる貢献をしました。郷土史料室は、この耕餘塾を中心とする私たちの誇れる郷土の文化・歴史遺産を風化させることなく後世に残し、教育・社会の発展の一助にとの思いで設置しました。明治地区に残る文化・歴史史料を発掘し、展示することで一人でも多くの方に郷土の歴史を知っていただきたいとします。

常設展「小笠原東陽と耕餘塾」も同時開催しています

明治郷土史料室運営委員会